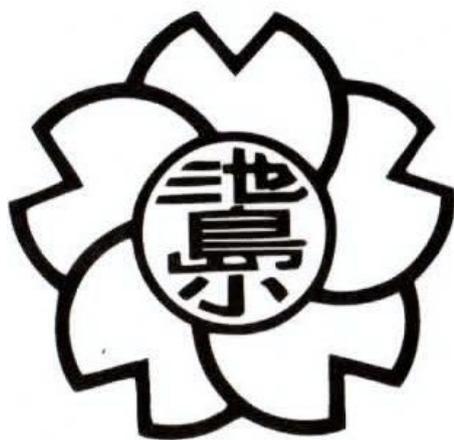


令和7年度

運営に関する計画

最終評価



大阪市立池島小学校

大阪市立池島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校地域は2か所の児童養護施設と付随する2か所の小規模施設を有し、虐待を含む様々な社会的養護を必要とする子どもが約36%在籍している。その多くの子どもは愛着障がい（AD）の傾向をしめしており、重複してASD（自閉スペクトラム症）やLD（学力不振）等の発達症をあわせ持っている。本来形成されるべき特定の人との愛着がうまく形成されず、感情の未発達・未学習を引き起こし、絆の問題を抱えることとなった子どもに対し、入学後に愛着形成を行う必要がある。これは施設の子どものみに限られた問題ではなく、一般家庭でも見られる状態である。さらに、特別支援学級在籍割合は38%であり、個々の子どもに対する手厚い支援が必要である。こうした状況の子どもの自尊感情を高め、自己と共に他者を大切にすることを心すなわち自己有用感を育てることは、本校にとって喫緊の課題である。

本校の地域は、児童養護施設の子どもの理解は深く、地域の子どものために大切に育てている。施設側も地域と共に子どもを育てるという立場で子どもの育てに関わっている。

第1期、第2期大阪市教育振興基本計画のもと本校では、多くの成果をあげてきた。

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】においては下記である。

○いじめの解消率 100%を維持。

○「学校は仲間がいて、いじめをゆるさない安心できる場所だと思う。」に対する肯定的な回答の割合は、80%を上回った。

○「学校のきまり・規則を守っていますか」に対する肯定的な回答の割合は、90%を上回った。

○自尊感情や自己有用感に関しては、「自分には1つ以上よいところがある。」に対する肯定的な回答の割合は80%を上回った。「誰かの役に立つ人間になりたい（高学年）」と回答する児童の割合は、90%を上回った。

○不登校の子どもが毎年1名以上出ており、登校できるようになってはいない。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】においては下記である。

○小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較した時、3,4,6年生は向上してきているが、3年連続で5年生が低下傾向にある。（令和3年度 3年生91.7 4年生99.0 5年生96.5 6年生97.0）

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対する肯定的な割合は前年度より増加し、79.6%

○「すすんで漢字学習に取り組んだ」に対する肯定的な割合は85%、漢字検定合格率は75.3%

○令和3年度全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに平均正答率は大阪市を6～7ポイント下回っている。

○令和3年度全国体力運動能力、運動習慣等調査の結果、体力合計点は、男子は大阪市平均を上回り、全国平均はやや下回った。女子は大阪市平均とほぼ等しく、全国平均を下回る結果となった。

こうした現状と成果を踏まえ、新たな教育の方向性を導くために、第3期大阪市教育振興基本計画の3つの最重要項目から今後4年間取り組む課題を整理する。

安心安全な教育の推進

- 子どもと教員との愛着形成を図る。
本校の子どもにとって教員との愛着の形成は不可欠である。特に、学級担任、支援学級担当との愛着の形成を図り、感情の学習や他者との関係性づくりを進める。
- 自尊感情の向上を保障する。
学校のきまりを守る、自分の可能性に気づく、仲間と共に活躍する場を得る、自己の成長を感じる、他者から必要とされる、成功体験を繰り返す等の自尊感情を高める学校生活を保障する。
- 自他の命を守る力を育成する。
子どもの道徳性、社会性の育成に努め、自他の命を尊重し安全で安心な社会づくりに参加するための資質・能力を育てる。

未来を切り拓く学力・体力の向上

- 学習の基盤となる資質・能力を育成する。
すべての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素である語彙を豊かにする。(読書、漢字)
- 授業の質的転換を図り授業力を向上する。
個別最適な学び(「個に応じた指導」(指導の個別化と学習の個性化)を学習者の視点から整理した概念)の一層の充実を図る。そのため、主体的・対話的で深い学びを実現する。同時に、探求的な学習や体験活動等を通じ、協働的な学びを実現する。
- 外国語活動、外国語科の授業の充実を図る。
C-NET、外部講師と外国語担当教員、担任との連携の強化を進める。「小学校低学年からの英語教育の時間」の確実な実践を積み重ねる。
- 自己の体力に関する理解を進め、主体的に運動する習慣を付ける。
体育科授業の実践記録の積み重ね、運動環境の充実、全校体力作りへの取組を行う。

学びを支える学習環境の充実

- 学習者用端末を使用した学習の日常化を図る。
協働学習支援ツールや学習用デジタルドリルの活用を一層充実させる。また、プログラミング学習年間指導計画に則った実践を積み重ねる。自己の体力に関する理解を進め、主体的に運動する習慣を付ける
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に基づいた働きやすい職場環境を整える。
- 長時間勤務の解消、年次有給休暇の取得率の向上を図る。
- 読書環境を整え、読書活動を推進することによって、本好きな子どもを育てる。

前述の課題を受けて、令和7年度末までに達成する中期目標を下記の通りとする。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和7年度末の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
73.5	中止	73.9	67	75.8	82.4	85.4

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
0.71	1.60	1.80	0.99	0	0	2.63

○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

○令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を令和3年度(60.9%)より20%増加させる。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
70.6	中止	60.9	86.9	76.4	94.7	97.0

○令和7年度の小学校学力経年調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
77.3	94.1	90.9	85.9	90.5	93.1	98.7

○令和7年度の校内調査の「災害や防災について、自分にも起こりうる事と考えて行動できた」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
			90	100	94	96

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
34.4	36.7	42.6	27.2	40.4	36.6	52.5

○令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上し1.00以上にする。

	国語				算数			
	R4	R5	R6	R7	R4	R5	R6	R7
現6年生	0.81	0.66	0.68	0.75	0.68	0.60	0.68	0.92
現5年生		0.67	0.58	0.81		0.59	0.46	0.80
現4年生			0.81	0.78			0.66	0.83
現3年生				0.82				1.02

○令和7年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
67.9	91.3	86.9	87.5	72.8	73.6	97.0

○令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
63.0	64.2	67.8	68.4	62.3	52.5	73.3

○令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
79.7	中止	79.5	67.9	71.7	68.6	84.7

○規則正しい生活を身に付けている児童の割合（令和7年度の全国学力・学習状況調査の「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合）を70%、80%以上にする。

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
寝ている	67.6	中止	60.9	65.2	66.7	89.5	78.9
起きている	85.3	中止	78.3	82.6	75.0	89.5	84.3

【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度の校内調査の、「授業の中で学習者用端末を活用して学習している」の項目（協働学習支援ツール、デジタルドリルを含む）について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、80%以上にする。

R4	R5	R6	R7
93	81	96	76

○令和7年度の校内調査の、「学習者用端末を活用して発表することができますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。

R4	R5	R6	R7
86	77	95	80

○令和7年度の校内調査の、「プログラミング学習は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

R4	R5	R6	R7
75	81	82	80

○令和7年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。

R4	R5	R6	R7
72.1	68.1	76.1	80.2

○令和7年度の保護者アンケートの「お子様との会話や学校からの手紙、連絡等で学校でのお子様の様子がよくわかりますか」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を、90%以上にする。

R4	R5	R6	R7
95	94	90	90

○ゆとりの日を毎週1回以上設定する。

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を100%にする。

（基準2とは、時間外勤務が年間720時間以下、月45時間を超える月数6月以下、月100時間を超える月数0、前2～6か月の平均が80時間を超える月数0）

2 中期目標の達成に向けた令和7年度目標

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

○令和7年度の小学校学力経年調査及び年度末の校内調査の「学校に行くのは楽しいですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合をいずれも80%以上にする。

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
経年	79.4	82.8	73.7	72.0	73.7	78.8	85.0
校内	77.3	85.7	85.5	86.0	89.0	91.0	88.0

○年度末の校内調査において「学校から帰ってから、スマートフォン等を使用して、平均どれくらいの時間 SNS、動画視聴、ゲーム等をしていますか。」に対して3時間以上と回答する児童の割合を20%以下にする。

※参考 全国学力学習状況調査結果 池島 31.6% 全国 20.7%

R7
24.0

○令和7年度の小学校学力経年調査の「ふだん（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたりしますか（インターネットを使わないゲーム）。」に対して3時間以上と回答する児童の割合を30%以下にする

参考 令和6年度 3時間以上と回答 47.3%

R7
31.9

○令和7年度の小学校学力経年調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
70.6	中止	60.9	86.9	76.4	79.9	97.0

○年度末の校内調査において、「学校や学級のきまり（約束）を守っていますか。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を60%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
53	64	58	58	57	60	55.2

○令和7年度の小学校学力経年調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
77.3	94.1	90.9	85.9	90.5	93.1	98.7

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

○令和7年度の小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して最も肯定的な回答をする児童の割合を40%以上にする。

R6	R7
36.6	52.5

○令和7年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

R6	R7
73.6	97.0

○令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

R6	R7
52.5	73.3

○令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

R6	R7
68.6	84.7

○規則正しい生活を身に付けている児童の割合（令和7年度の全国学力・学習状況調査の「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合）を70%、80%以上にする。

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
寝ている	67.6	中止	60.9	65.2	66.7	89.5	78.9
起きている	85.3	中止	78.3	82.6	75.0	89.5	84.3

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

○令和7年度の小学校学力経年調査の「大型提示装置（大型テレビやプロジェクタなど）で、注目してほしいところを指などで示したり、マーキングしたりして、発表することができますか。」に対して肯定的な回答をする児童の割合を65%以上にする。

R6	R7
57.2	

※令和7年度設問なし 参考校内調査結果 80%

○令和7年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
82	72	76	72.1	68.1	76.1	80.2

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の51%以上にする。
〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕

R6	R7
90.6	89.1

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を100%にする。

(基準2とは、時間外勤務が年間720時間以下、月45時間を超える月数6月以下、月100時間を超える月数0、前2～6か月の平均が80時間を超える月数)

項目	R5	R6	R7
基準1※3	78.26%	90.48%	71.43%
基準2※3	100.00%	100.00%	95.24%

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- 不登校児童は現状2人である。児童養護施設の児童が6年生途中から完全不登校になった。施設の児童は、大人への要求や自分の居場所への不安から学校に来られなくなっている。一般家庭の児童は、スマホ依存による生活時間のずれから、欠席日数が30日を越えている。担当教員、SSW、養護教諭と連携し、施設の職員や保護者との対話を行ったり、子どもサポートネット会議で共有したり、区の子育て支援室と共有したりしながら学校から離れないよう支援している。
- 「いじめ」アンケートでは、8件のいじめ事案を確認できている。担任の聞き取りやていねいな指導の成果もあり、現状では解消率は100%である。当該児童以外の児童からの訴えもすべて丁寧な生活指導を行っており、早期解決ができています。また、「いじめ・命について考える日」での指導をはじめ、特別の教科道徳の時間や人権学習で「いじめ」そのものを考えさせ、自分以外の人に対する考え方の育成、人権感覚の向上などをめざし学習をおこなっている。教務主任が中心となり、心の天気の確認を行い学級担任と連携しながら、児童の心情に寄り添う支援ができるようにしている。SNS上のいじめ動画が広がりを見せた時には、臨時で「いじめについて考える日2」を実施し、全児童に考えさせる時間をとった。
- 今年度は港区教育担当が重点的に取り上げている「スマホ活用」に関して本校でも取り組みを進めた。意識調査や使用時間の調査を分析し、保護者への啓発としてメディアコントロール会議を開き、スマホを扱うときのルールを家庭や児童養護施設で改めて確認してもらうように進めた。その結果として、スマホ等の視聴時間が短くなる傾向を見せ始めている。学力学習状況調査、学力経年調査ともに「使用が3時間を超える」と回答する児童の割合は、**10ポイント前後**下がっている。
- 自己肯定感は令和3年度より高まっている。全国学力学習状況調査の結果では**94.7%**、大阪市学力経年調査の結果では**97.0%**、校内調査では**93%**の児童が肯定的な回答をしている。これは令和3年度と比較して30%以上の伸びを見せている。長年にわたりその時々教職員が児童の愛着形成に努力をしている成果が大きくでている。児童の生き辛さを理解しようと研修を受けたり、児童養護施設との連携を深めたり、全児童に対して共通した関りを進めている成果といえる。
児童会が中心となって取り組んだ「なかよしウィーク」や各学級で行った「今日のきらりさん」や「いいところみつけ」、「今日のありがとうさん」を通して、互いを認め合ったり許しあったりする気持ちが育ってきている。

〈今後の課題〉

引き続き、学校経営理念として掲げた「モチベーション3.0（内発的動機付け）」

すなわち、興味、好奇心、才能の開花、自己の成長、キャリア意識、達成感、他の仲間、更には地域社会への貢献意識を中心とした動機付け法による児童の成長に至るためにエビデンスに基づく指導法を工夫する。

人に備わる、「有能感」「自律性」「関係性」という3つの心理的要求に応えることができるような文化的価値のある学校行事、日々の指導、児童との関わり方について研修を深める。児童の内面に寄り添い、心理的要求が満たされるように、よりいっそう環境を整え、内発的動機付けを発揮できるようにする。加えて大人も子どもも「ウェルビーイング」をめざす学校づくりの実行を進める。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較したところ下記のような結果であった。

	国語					算数				
	R3	R4	R5	R6	R7	R3	R4	R5	R6	R7
現中1生	0.77	0.81	0.72	0.78		0.73	0.68	0.68	0.77	
現6年生		0.81	0.66	0.68	0.75	0.68	0.60	0.68	0.92	0.81
現5年生			0.67	0.58	0.81		0.59	0.46	0.80	
現4年生				0.81	0.78			0.66	0.83	
現3年生					0.82				1.02	

いずれの学年も前年度より向上させ、1.00以上に至るところに目標を置いていたが、達成できたのは、3年生の算数であった。昨年度の数値を超えている学年が多く、引き続き学習指導の効果的な取組を進めたい。

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合は、**52.5%**と目標を上回れた。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、R6 73.6% から R7 **97.0%**と大きく向上した。
令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、R6 52.5%から R7 **73.3%**と向上した。
いずれの教科も、教科担任制を実施したことにより教員の専門性が高まり授業力の向上が認められる。外国語に対する関心は中学年ほど高く、高学年になるほど下がる傾向にある。これは4技能（聞く・読む・話す・書く）のうち、話す・書く技能を求められることにより英語離れの現象が起きているのではないかと推測できる。本校では、低学年からの外国語学習は毎週水曜日と金曜日の朝の時間に20分ずつ行っている。また、民間の英語学習塾の講師を招聘し、1、2年生に体験的に英語を学ばせる機会を設けている。今後これらの成果が出てくることを期待している
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は、R6 68.6% から R7 **84.7%**と向上した
これは、体育主任を中心として昨年度より運動が好きになるように、業間運動や体育授業を充実させようとしていることが結実してきているといえる。

- 漢字検定への取組では、自分の今の漢字力を理解し、合格を目指す級を選定し、そのために漢字の勉強をする。こうしたメタ認知できる力は重要な非認知面の力である。児童は、朝学習や家庭学習で漢字検定の勉強を自学自習が当たり前に行えるようになってきている。自分の目指す級に合格したいという意欲の向上につながってきている。

令和7年度 漢字検定受験者数・合格者数

実施日1月230日(本検定)

上段…受験者数 下段…合格者数

	10級	9級	8級	7級	6級	5級	4級	合計	合格率
1年1組	14							14	57%
	8							8	
2年1組	3	3						6	67%
	2	2						4	
3年1組	1	1	5					7	57%
	0	0	4					4	
4年1組		1	8	2				11	64%
		1	4	2				7	
5年1組		1	9	4		1		15	53%
		1	2	4		1		8	
6年1組	1		10	3	2	3	2	21	62%
	1		4	1	2	3	2	13	
合計	19	6	32	9	2	4	2	72	
	11	4	14	7	2	4	2	42	
合格率	58%	67%	44%	78%	100%	100%	100%	58%	

令和7年度学

力・学習状況調査の分析は以下の通り。

大阪市の結果と比較すると、平均正答率は国語－24%、算数－19%、理科－14%下回っている。国語では正当数半分以下の児童は55.6%、算数では56.9%であり、昨年度よりは改善されているが、依然として正当数分布は大きく左に偏っている。愛着に課題のある児童が多く在籍する本校では、児童の自己肯定感を高め、何事にも積極的に挑戦し、粘り強く取り組む姿勢を育てるために指導者は日々肯定的な声掛けをしている。また、児童の実態を見極めながら個別最適な授業づくりに努めている。しかし、自ら進んで学習に取り組もうとするマインドにはムラがあり、それは設問21にあるように帰宅後の学習時間が十分でないことから伺える。学習することの意義を知り、学習することが楽しいと思えることが必要であると感じる。

[国語]

内容別正答率はどれも大阪市との差は大きい。これは、まず問題文に書かれていることを正確に読み取ることが苦手な児童が多いと考えられる。漢字の力に関しては、第1ブロックで取り組んでいる漢字検定に向けての学習の成果により着実に向上している。

[算数]

本校では日々の授業の中で、教科書やデジタルドリル、教員が作成した学習プリント等を積極的に活用している。その成果が少しずつ現れ、「数と計算」領域の正答率は上昇傾向である。

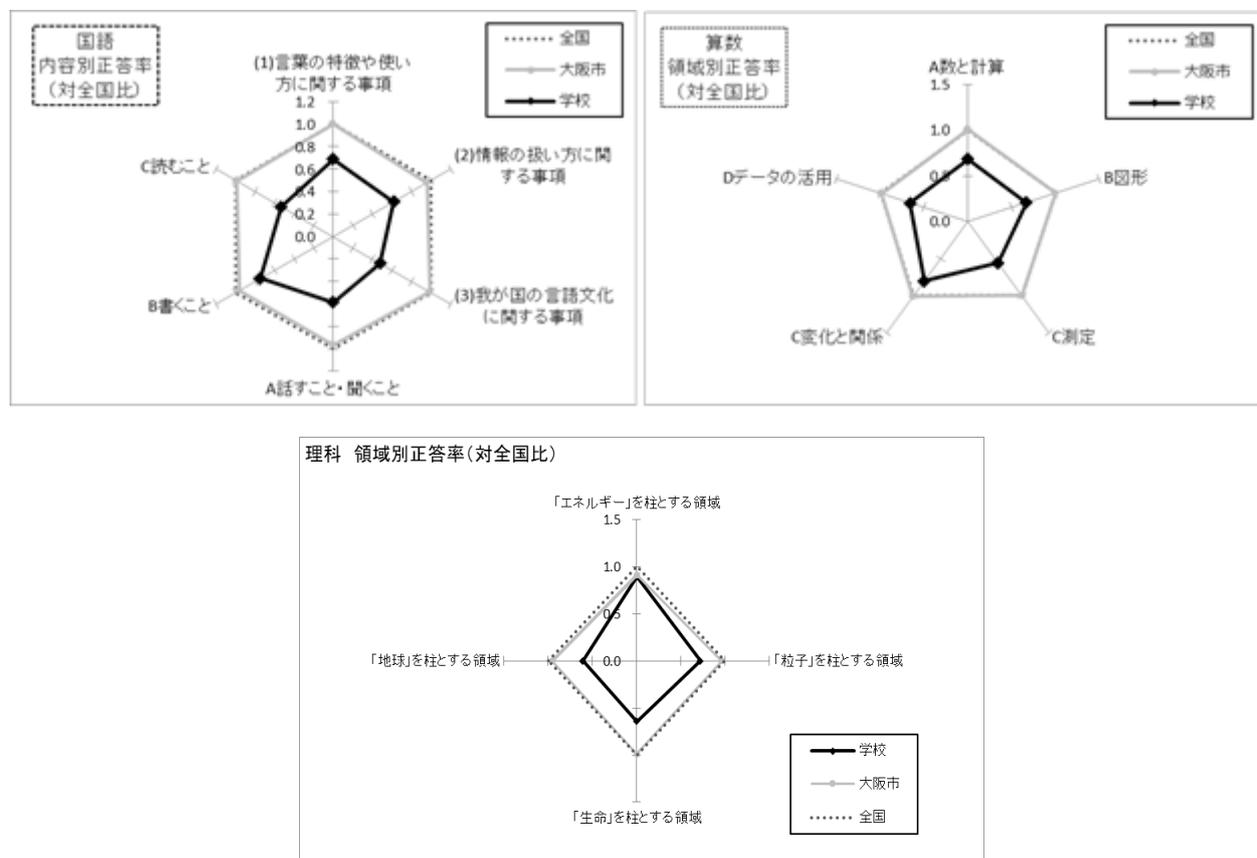
[理科]

「エネルギー」を柱とする領域・「粒子」を柱とする領域については、大阪市との差は少ない。しか

し、全体的に前学年までの既習事項を活用する問題では、忘れていた内容も多く誤答が増える傾向にある。

また、どの教科においても、記述式の問題の正答率は非常に低く、自分の考えを文章で表現する力に課題がある。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



- 令和7年度全国体力運動能力、運動習慣等調査の分析は以下の通り。
(母体数 15名)

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	16.82	19.00	28.36	37.55	44.82	9.99	148.00	22.18	47.50
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.00	21.06	53.02
女子	16.00	22.75	37.25	44.00	32.25	9.83	142.50	19.50	58.00
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

はじめに、令和6年度の本校5年生児童の全国体力・運動能力、運動習慣等調査は男子11人、女子4人の計15人を調査したものである。したがって、統計的に資料不足であり、単純に大阪市平均・全国平均と比較することはできない。

体力合計点は、男子は大阪市・全国平均を下回り、女子は上回った。種目ごとに見ると、男子は握力、

ソフトボール投げ以外、大阪市・全国平均を下回った。女子は、長座体前屈と20mシャトルランで下回ったものの、その他の種目は大阪市・全国平均を上回っている。

男子は体力合計点で大阪市・全国平均を下回っており、種目ごとにみると「握力」「ソフトボール投げ」で大阪市・全国平均を上回ったが、それ以外の種目では下回っている。女子は体力合計点や多くの種目で、大阪市・全国平均を上回った。特に「反復横とび」「ソフトボール投げ」は大きく上回っている。

児童への運動に関するアンケート調査において、「運動やスポーツをすることは好きですか」の質問に対し、男子は9人が「好き」、2人が「やや好き」と回答し、女子は3人が「好き」、1人が「やや好き」と回答した。男女ともに「やや嫌い・嫌い」と回答した児童はいなかった。

1週間の総運動時間が60分未満の児童は、男子・女子ともに0人であった。

本校では、これまでに引き続き、休み時間に児童が外で体を動かして遊ぶ時間を増やすために「大縄跳び月間」「短縄跳び月間」「かけ足月間」の3つの取り組みを行った。それぞれの活動で、学級や個人で目標を持ち積極的に取り組んだり、進んで練習をしたりする姿が見られ、普段運動が苦手な児童も意欲的に運動することができた。

また、教職員が積極的に児童と遊ぶことで、年度当初から多くの児童が外で遊ぶ姿が見られ、楽しんで体を動かす習慣が身についてきている。

体育の授業では、各学年人数が少ないため活動に合わせて合体を行い、チームや場づくりの工夫に取り組んだ。また全学年で、毎年引き継いでいる授業づくりと場づくりの記録を参考にし、各学年が児童の実態に合わせた授業を実施した。

本校は年々児童数が減少しており、10人前後の学年も複数あり、大人数で取り組むような運動は実施しにくい。反面、運動場や体育館の割り当てで困ることはなく、広々とした場所で運動をすることができる。人数が少ないので運動用器具の数も十分足りている。上述したような効果的な取り組みを継続しながら、小規模校である特色を生かすことができるような体育活動に取り組んでいきたい。。”

<今後の課題>

自己調整学習を新たな授業改善ととらえ、更なる問題解決型授業の工夫を進める。パフォーマンス課題を設定し、児童が主体的に学べるようにする。学びを進める中で、個別最適な学びと協働的な学びの往還が図れる授業実践を行う。また、学習者用端末をより効果的に児童に使わせるための工夫、プログラミング教育の継続した学び、エビデンスに基づく学力分析、指導法の分析等を進める。ルーブリックを明確に児童と共有するように努めるとともに、パフォーマンス課題作成への道のりの指導を進める。同時に読書の習慣化を図り、読書量を増やせる手立てとして読み聞かせの機会の拡充を図る。さらに、研究を深め児童の学力の向上につながると考え、理解をもたらすルーブリックの作成を進めていく。

同時に、SST（ソーシャルスキルトレーニング）やコグトレといった認知機能強化トレーニングを取り入れ、毎日、毎体育の時間、池島タイムにゲーム感覚で取り組めるようにする。

運動環境の更なる充実とともに課題解決を伴う体育授業の質の向上を図る。加えて、運動習慣が高まるように、かけあし、なわとび等の業間運動の運営方法の見直しを図る。

【学びを支える教育環境の充実】

学習者用端末 年間活用率表

池島小学校

	令和7年									令和8年			年間達成率
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
教育委員会が設定した授業日数	0	18	20	13	4	19	21	17	17	14			143
日別活用率が80%以上の日数	0	18	18	13	0	19	18	15	14	12			127
年間達成率	-	100.0%	90.0%	100.0%	0.0%	100.0%	85.7%	88.2%	82.4%	85.7%			88.8%

- 年度末の校内調査の、「授業の中で、学習者用端末を活用して学習している。」の項目（協働学支援ツール、デジタルドリルを含む）について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合が **76%**と目標を下回った。これは、SKIP ポータルの心の天気の入力が定着してきたこと、教科学習のまとめのスライドづくりの学習が増加したこと、デジタルドリルの活用が増えたこと、プログラミング学習の時間が計画的に進んだことなどから、学習中での使用を児童がより高度なものとしてとらえていることが要因として考えられる。一方、学年によって活用頻度が下がっていることもみられる。年度末の校内調査の、「学習者用端末で作ったスライドなどを発表するとき、注目してほしいところを指などで示したり、目立たせたり（マーキング）して発表することができますか」に対して肯定的に回答した児童の割合は **84%**と目標を大きく上回った。各学級で、学習者用端末を用いてスライドやカードを作成し、発表方法を工夫する指導を行った成果であるといえる。
- 学校園における働き方改革に関しては、基準2を95.42%、基準1が71.43%達成率が下がっている。

項目	今年度	昨年度
基準1 ※ 3	71.43%	90.48%
基準2 ※ 3	95.24%	100.00%

〈今後の課題〉

学習者用端末を使用する時間や機会は確実に増加している。引き続き使用による学習効果があがるように進めていく必要がある。また、端末そのものが児童の健康面や発達面への影響を考慮し、様々な研究成果を参考にしながらすすめていく必要がある。また図書環境の整備を引き続き進めるとともに、児童がもっと読書を楽しめるような工夫が必要である。

教員の働き方改革も引き続き推進し、教員も「ウェルビーイング」な職場となるように改革を進めていく必要がある。

大阪市立池島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標								達成状況
【安全・安心な教育の推進】								
学校園の年度目標								
【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】								
○令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。								
	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
経年	79.4	82.8	73.7	72.0	73.7	78.8	85.0	
校内	77.3	85.7	85.5	86.0	89.0	91.0	88.0	
○年度末の校内調査において「学校から帰ってから、スマートフォン等を使用して、平均どれくらいの時間 SNS、動画視聴、ゲーム等をしていますか。」に対して3時間以上と回答する児童の割合を20%以下にする。								
※参考 全国学力学習状況調査結果 池島 31.6% 全国 20.7%								
						R7	24.0	
○令和7年度の小学校学力経年調査の「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたりしますか(インターネットを使わないゲーム)。」に対して3時間以上と回答する児童の割合を30%以下にする								
参考 令和6年度 3時間以上と回答 47.3%								
						R7	31.9	
【基本的な方向2 豊かな心の育成】								
○令和7年度の小学校学力経年調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。								
R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
77.3	94.1	90.9	85.9	90.5	93.1	98.7		
○令和7年度の小学校学力経年調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。								
R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
70.6	中止	60.9	86.9	76.4	80.6	97.0		

○年度末の校内調査において、「学校や学級のきまり（約束）を守っていますか。」に対して、最も肯定的な「 <u>そう思う</u> 」と回答する児童の割合を60%以上にする。						
R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
53	64	58	58	57	60	55.2

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現】</p> <p>○画面を長時間見続けることによる心身への悪影響についての出前授業または講習会、保健指導を行う。</p> <p>○全校朝会の際に、画面視聴時間が長くなり過ぎないように啓発をする。</p> <p>○毎月の生活目標の中に、画面視聴時間を減らす目標を入れる。</p> <p>○特別な教科道徳に関連させ、スマートフォンの適切な使用法について指導する。</p> <p>-----</p> <p>指標</p> <p>○年度末の校内調査における「学校から帰ってから、スマートフォン等を使用して、平均どれくらいの時間 SNS、動画視聴、ゲーム等をしていますか。」に対して、3時間以上と回答する児童の割合を20%以下にする。</p> <p>○学力経年調査における「ふだん（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたりしますか（インターネットを使わないゲーム）。」に対して、3時間以上と回答する児童の割合を30%以下にする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>○児童が他学年との仲間づくりを進めるために、児童会が中心となつてたてわり班を生かす集会やいけっこまつりを行う。</p> <p>○児童が困っている人や助けを必要としている人の存在に気付き、自分たちにできることを考えられるようにするために、人権学習や特別の教科道徳で扱う福祉の学習を行う。</p> <p>○学年に応じて各学級で友達のいいところや感謝の気持ちを伝えあうなど、互いを認め合う取り組みを行う。</p> <p>-----</p> <p>指標</p> <p>○年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</p> <p>○学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。</p> <p>○学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【取組内容①】</p> <p>○ 年度末の校内調査における「学校から帰ってから、スマートフォン等を使用して、平均どれくらいの時間 SNS、動画視聴、ゲーム等をしていますか」に対して、3時間以上と回答した児童の割合は24%であった。</p>	

○ 学力経年調査における「ふだん（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたりしますか（インターネットを使わないゲーム）。」に対して、3時間以上と回答した児童の割合を27%であった。

各取り組み内容を計画的に実施したが、中間評価では、あまり効果は見られなかった。しかしながら、一年間を通して継続した指導を行ったためか、徐々に児童の画面視聴時間を減らさなければという意識が高まっていったので、最終評価では数値が向上していると推察している。特に、11月に実施したメディアコントロール会議が、児童だけでなく、保護者のこの問題に対する意識を高め、数値改善に大きな役割を果たしたと思われる。また、養護教諭、栄養教諭による課題の見られる児童に絞っての個別の面談、保健委員会が行った啓発のポスター、2学期末の懇談会時に改めて保護者に啓発するなどの追加の取り組みを行った。さらに、読書や運動など、別の活動に意識を向けさせる指導を各学級で行った。

【取組内容②】

○校内調査における「学校に行くのは楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は87%と目標値を達成できた。教室での居場所づくりやたてわり班を生かした児童会活動、集会により、教室で安心して過ごせたり異学年と過ごしたりすることができたためと考えられる。

○学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は98%で目標を上回っている。人権教育や特別な教科道徳、ありがたいの励行をする中で、人の役に立つことのよさややりがいを感じることができていると考える。

○学力経年調査における「自分にはよいところがありますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合は96%で目標を上回っている。子どもたちがよいところを伝え合うことができるように、教師が子どもの良いところを様々な場面で伝えるようにしていたり、学級でいいところ見つけを行い、互いのいいところを認め合える活動が定期的に行われていたりしたからだと考える。

次年度への改善点

【取組内容①】

画面視聴時間を減らすために、当初の計画通りに取り組み内容を実施し、児童の変容を見て追加で様々な取り組みも行ってきた。しかし、教育現場含め、現代社会において画面視聴は生活の一部であるので、劇的に事が好転するのは難しいと感じる。そこで、「画面視聴＝良くないこと」と抑制的な指導をするのではなく、過度な視聴を避けるように児童自身が自制できる力を身につけさせるという意識で指導に当たる必要がある。基本的には来年度以降も現在の取り組み内容は継続しつつ、今年度後半に追加した取り組みのように、その時の児童の実態に応じた方略を考えていく。

【取組内容②】

・学級の人数が少なく友人関係が固定されがちであるので、トラブルがあったときに寂しさを感じる児童もいる。引き続きたてわり班などで多学年との交流を深め、学級以外での居場所づくりも意識していく。

・児童は「ありがとう」と言われるとうれしそうにしている。ありがたいの励行の取り組みの中で、「だれかの役に立ちたい」と思う心が育ってきていることがわかるので、取り組みを継続していく。

・全体的には、各項目を肯定的に捉えている児童が多いが、ネガティブな思いを持っている児童が一定数いる。聞き取りや声掛けにより、中間評価より数値が改善していたので、児童一人一人が抱えている不安や疑念を和らげることができたと感じている。引き続き、教職員が密に連携し、児童理解を図り、学校全体で一人ずつを見守っていく必要がある。

(様式2)

大阪市立池島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況																
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <table border="1" data-bbox="145 730 445 846"><thead><tr><th>R6</th><th>R7</th></tr></thead><tbody><tr><td>73.6</td><td>97.0</td></tr></tbody></table> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して最も肯定的な回答をする児童の割合を40%以上にする。</p> <table border="1" data-bbox="145 1055 445 1171"><thead><tr><th>R6</th><th>R7</th></tr></thead><tbody><tr><td>36.6</td><td>52.5</td></tr></tbody></table> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。</p> <table border="1" data-bbox="145 1335 445 1451"><thead><tr><th>R6</th><th>R7</th></tr></thead><tbody><tr><td>52.5</td><td>73.3</td></tr></tbody></table> <p>【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。</p> <table border="1" data-bbox="145 1733 445 1850"><thead><tr><th>R6</th><th>R7</th></tr></thead><tbody><tr><td>68.6</td><td>84.7</td></tr></tbody></table> <p>○規則正しい生活を身に付けている児童の割合(校内における実態調査の「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合)を75%、75%以上にする。</p>	R6	R7	73.6	97.0	R6	R7	36.6	52.5	R6	R7	52.5	73.3	R6	R7	68.6	84.7	
R6	R7																
73.6	97.0																
R6	R7																
36.6	52.5																
R6	R7																
52.5	73.3																
R6	R7																
68.6	84.7																

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
寝ている	67.6	中止	60.9	65.2	66.7	89.5	78.9
起きている	85.3	中止	78.3	82.6	75.0	89.5	84.3

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○理科の学習において、体験的な活動や出前授業の機会を多く設け、児童が楽しんで学習できるようにする。</p> <p>○児童間の交流を通して学習が深まるように授業展開を工夫する。</p> <p>○学年に応じた話し合いの話型や意見交流のポイントを掲示し、意見交流の指導に取り組む。</p> <p>○外国語の学習において、歌やゲームなどの活動を多く取り入れ、児童が楽しんで学習できるようにする。</p>	B
<p>指標</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して最も肯定的な回答をする児童の割合を40%以上にする。</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>○体育授業を充実させるために、実技研修会を実施する。</p> <p>○「なわとび月間」や「かけ足月間」を設定し、全校児童が運動に取り組む機会を設ける。</p> <p>○児童が基本的な生活習慣を身につけられるよう、教職員や委員会児童による啓発・面談を行う。</p>	B
<p>指標</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。</p> <p>○規則正しい生活を身に付けている児童の割合（校内における実態調査の「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合）を75%、75%以上にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【取組内容①】</p> <p>○ 学力経年調査における「理科の勉強は好きですか。」に対して、肯定的に回答した児童の割合は約97%で、目標の80%を大きく上回った。</p>	

- 理科の学習においては、単元の導入を工夫したり、実験や観察など体験的な活動を多く取り入れたことで、児童は楽しんで学習に取り組んでいた。出前授業や校外学習でも科学に親しむ様子が見られた。実際に児童から「理科が好きだ、おもしろい」という声をよく聞くようになった。また、校内調査では低学年における否定的な回答が0%だったことから、生活科などで体験活動を多く取り入れたことにより、高学年での理科学習に意欲的に取り組むための土台作りができていると考えられる。
- 学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して最も肯定的な回答をする児童の割合は約52%で、目標の40%を上回った。
- 各教科の学習において、児童間の交流が活発になるよう授業展開を工夫し、友達との話し合いを通じて考えを深められるようにした。自己調整学習や自由進度学習を取り入れたことで、児童間で自然に交流が生まれる場面も多くなった。指導者がグループでの話し合いの中での児童の発言を全体に共有したり、補助発問をしたりすることで、より多様な思考を持たせ、深い学びへと導いた。
- 学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合は約73%で、目標の70%を上回った。
- 低学年では外部講師を招いて、3年生以上ではC-NETと協力して外国語に親しむ機会を設けた。週2回の朝のモジュール活動や外国語活動では、歌やダンス、ゲームなどを取り入れ、児童が楽しんで活動できるように授業展開を工夫した。低学年に比べて高学年で肯定的な回答の割合が下がることから、外国語を使って人前で発表することに対する恥ずかしさや、書く活動への苦手意識が影響しているのではないかと考えられる。

【取組内容②】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合は、84.7%であった。「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答した児童の中には、特定の領域（ボール運動や器械運動、水泳運動など）に苦手意識をもっていたり、思うようにできないと考えていたりするために、「当てはまる」と回答しないことも理由として考えられる。
- なわとび月間やかけ足月間ではカードを活用したり、認定証や表彰状を渡したりすることで、目標の達成に向けて休み時間にも意欲をもって取り組む児童が増えた。
- 実技研修会では児童が楽しめる指導法を学ぶことで、実践に活かすことができた。また、伝達研修会では少人数で取り組める活動を共有することで、さまざまな運動を知る機会の一つとすることができた。
- みんな遊びを取り入れたり、教師も一緒に遊んだりして、運動に親しむ機会を増やせるようにしてきたことで、令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答する児童の割合は、94.3%となった。一方、休み時間のほとんどを室内で過ごす児童も一定数おり、外遊びをする児童が固定化されていたことが課題として挙げられる。
- 11月に実施した校内調査における「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」に対して、肯定的に回答した児童の割合は約74%で目標を少し下回った。また、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、肯定的に回答した児童の割合は約89%で目標を上回った。
- 児童が基本的な生活習慣を身につけられるよう、教職員や委員会児童による啓発を行った。保

健室前の掲示物に児童が興味を持ち、生活習慣を見直すきっかけになった。生活習慣の見直しにおいては、1学期と2学期に行った養護教諭と栄養教諭による個別の面談が効果的であった。生活チェックの結果は懇談会を通して家庭や寮へ知らせ、協力を働きかけたり、面談後も改善できているかどうか声掛けを行ったり、正しい生活習慣が定着できるよう寄り添った指導を行った。

- 11月にメディアコントロール会議を実施し、メディアのルールについて、家庭や寮で話し合う場を設けた。その結果、校内調査におけるメディアを3時間以上使用している児童の割合は28%から24%に減少した。今年度の取り組みと学校医の講話を動画にまとめ、土曜参観で保護者に見てもらうことで、児童だけではなく保護者への啓発にもつなげた。学校と家庭・寮が連携した取り組みを行うことができた。

次年度への改善点

【取組内容①】

- 結果が目標を大きく上回っていることから、現在の取り組みを継続していくことが重要であると考えられる。科学の力を利用した手品や遊び、実験を取り入れ、児童が興味関心をもてるようにしたり、科学に親しめるような出前授業や校外学習を継続したりしていく。
- 今後も授業内で児童間の話し合いの機会を多く設ける。その際に話し合いのポイントを提示したり、それを繰り返し活用したりしていくことで話し合いの力を定着させていく。また、話し合いに必要な聞く力を育成するために、SSTやコグトレなども積極的に取り入れていきたい。
- アクティビティを多く取り入れつつ、発表や書くことへの抵抗感を減らしていく取り組みが必要である。指導者が率先して学級全体で外国語を楽しもうという温かい雰囲気づくりに励み、恥ずかしさや苦手意識を感じにくい授業展開の工夫を考え、実施していく。外国語活動の時間だけで取り組ませるのではなく、例えばなかよしタイムに外国の遊びを取り入れてみたり、朝のあいさつ運動にイングリッシュデイを設けたりと、日常的にゲーム感覚で外国語に触れられるような取り組みを考えていく。

【取組内容②】

- なわとび月間やかけ足月間などの取り組みでは、次年度もカードを活用し、認定証や表彰状を渡すことで意欲を持続できるようにする。
- 今後も実技研修等を通して場づくりや指導法を工夫し、一人ひとりが目標を持って取り組めるようにすることで、運動の楽しさや運動することの清々しさを実感したり、健康について考えたりできるようにする。
- 1日1回は外で遊ぶことをよびかけていくとともに、休み時間や放課後などにも取り組める遊びや運動を伝えることで、体を動かすことを習慣化できるようにする。
- 引き続き保健委員会による啓発活動や生活チェック後の個人面談を継続していく。個人面談のメンバーが固定化していて、保護者の生活習慣の改善も必要な場合は、学校だけでなく学校医等、他の機関とも連携して啓発を行える方法を探したい。家庭への啓発が必要である。また、学校保健委員会の開催時期についても検討していきたい。

大阪市立池島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況																																		
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の51%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R6</th> <th>R7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90.6</td> <td>89.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査の「大型提示装置(大型テレビやプロジェクタなど)で、注目してほしいところを指などで示したり、マーキングしたりして、発表することができますか。」に対して肯定的な回答をする児童の割合を65%以上にする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R6</th> <th>R7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>57.2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和7年度設問なし 参考校内調査結果 80%</p> <p>【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を100%にする。</p> <p>(基準2とは、時間外勤務が年間720時間以下、月45時間を超える月数6月以下、月100時間を超える月数0、前2~6か月の平均が80時間を超える月数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準1※3</td> <td>78.26%</td> <td>90.48%</td> <td>71.43%</td> </tr> <tr> <td>基準2※3</td> <td>100.00%</td> <td>100.00%</td> <td>95.24%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、<u>肯定的に回答する</u>児童の割合を80%以上にする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>82</td> <td>72</td> <td>76</td> <td>72.1</td> <td>68.1</td> <td>76.1</td> <td>80.2</td> </tr> </tbody> </table>	R6	R7	90.6	89.1	R6	R7	57.2		項目	R5	R6	R7	基準1※3	78.26%	90.48%	71.43%	基準2※3	100.00%	100.00%	95.24%	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	82	72	76	72.1	68.1	76.1	80.2	
R6	R7																																		
90.6	89.1																																		
R6	R7																																		
57.2																																			
項目	R5	R6	R7																																
基準1※3	78.26%	90.48%	71.43%																																
基準2※3	100.00%	100.00%	95.24%																																
R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7																													
82	72	76	72.1	68.1	76.1	80.2																													

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <p>○学習者用端末を活用して、年に1つ以上大事な部分を目立たせたスライドやカードを作成する。注目してほしいところを指等で指示して発表する。</p> <p>○「心の天気」の入力を忘れずするよう、登校後の朝の準備に取り入れる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○年度末の校内調査における「授業の中で学習者用端末を活用して学習している。」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、90%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「学習者用端末で作ったスライドなどを発表するとき、注目してほしいところを指などで示したり、目立たせたり（マーキング）して発表することができますか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査の「大型提示装置（大型テレビやプロジェクタなど）で、注目してほしいところを指などで示したり、マーキングしたりして、発表することができますか。」に対して肯定的な回答をする児童の割合を 65%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>○ゆとりの日を毎週1回設定する。ゆとりの日は、17:00に閉庁し、その旨を4月に手紙でも保護者に周知する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○年度末の校内調査における「ゆとりの日は、各々の退勤時刻には仕事を終わることができるように努めましたか。」の項目で、肯定的に回答する教職員の割合を 80%以上にする。</p> <p>○勤務時間の管理をし、勤務時間の長い教職員の仕事軽減につながるよう、他の教職員と協力して校務を行う。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <p>○毎週火曜日に朝の読書タイムを実施する。様々な本に触れることができるよう、1か月に1度程度学級文庫の入れ替えを行う。また、図書館の貸し出しを利用して読書環境を整える。</p> <p>○図書委員会による読み聞かせやおすすめの本の紹介、学校図書館司書による毎週1回の図書館開放を実施する。また、学級でも毎週1回図書室を利用したり、学級貸し出しを利用したりして本に触れる機会を多く持つことができるようにする。</p> <p>○図書時間に図書館司書による読み聞かせを低学年向けに実施する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、<u>肯定的に回答する児童の割合を75%以上</u>にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「あなたは本を読むことが好きですか。」に対して、<u>肯定的に回答する児童の割合を75%以上</u>にする。</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【取組内容①】</p> <p>○校内調査「授業の中で学習者用端末を活用して学習している」と肯定的に回答した児童の割合は76%と、目標を14ポイント下回った。内訳をみると低学年は92%と上回っているが、高学年が67%下回っていた。ただ、月間の学習者用端末活用状況をみると、平日はほぼ90%を超えていることから、毎日学習者用端末を活用していることがわかる。学習者用端末の活用場面も多岐にわたり、児童が学習者用端末を触っていない日がないといえる。数値が低い要因としては、心の天気の入力やタイピング</p>	

が活用に含まれるとわかっていないからであると考えられる。

- 校内調査「学習者用端末で作ったスライドなどを発表するとき、注目してほしいところを指などで示したり、目立たせたり（マーキング）して発表することができますか」に対して肯定的に回答した児童の割合は84%と目標を大きく上回った。各学級で、学習者用端末を用いてスライドやカードを作成し、発表方法を工夫する指導を行った成果であるといえる。

【取組内容②】

- 校内調査「ゆとりの日は、各々の退勤時刻には仕事を終わることができるように努めましたか」に肯定的に回答した教職員の割合は100%と目標を達成できている。意識改革は進んでいるため、ゆとりの日を意識した見通しを持った仕事ができている。ただ、仕事量の偏りは役割によってある状態は解消できていない。また、ゆとりの日のために前日までにまとめて仕事をしているという状況もある。多くの職員が出張に行く日や会議がない日にするなど、ゆとりの日の設定日にも課題がある。

【取組内容③】

- 校内調査「あなたは本を読むことは好きですか」に対して、肯定的に回答した児童の割合は、80%と目標を5ポイント上回っていた。ただ、学年によって割合にばらつきがある。
- 年度末の校内調査における「あなたは本を読むことが好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合は80.2%と目標を5.2ポイント上回っていた
- 読書タイムや学級文庫の入れ替え、読み聞かせなど取り組みとしては十分に行われている。また、図書委員会による読み聞かせやおすすめの本の紹介も実施されている。
- 児童から読んでほしいリクエストを取って、オンライン朝会で読み聞かせを行っている。

次年度への改善点

【取組内容①】

- 「学習者用端末を活用して学習している」という意識を高めるために、心の天気やタイピングも活用していることに含まれているということを児童に周知することが必要。
- スライドやカードその作成については、学年によってできることやスキルに差があるため、その学年にあった方法で実施していき、指導者側の意識として目標を達成するためにどのような手立てが必要かという視点は持つておく。そして必ず成果物を作成することとしていく。（目立たせる方法として、「指で指し示す」、「マーキングする」だけでなく、「身振り手ぶり」、「表情や声色」も方法として有効としていく。）

【取組内容②】

- 不要な会議等の削減、仕事に見通しを持つために会議を行う場合は行事予定に入れるなどの取り組みをし、放課後の時間の使い方を最適に近づけていく。
- 連絡等の電子化を進めるために、連絡掲示板や個人連絡を活用する。ただ、連絡はしたもの十分に伝わっていなかったり、読んでいなかったりすることもあるため、発信者が職員朝会や連絡会等で発信することは必要である。

【取組内容③】

- 読書を好まない理由に「文字を読むのが面倒だ」「話が難しい」「おもしろい本がない」という声が多かった。また、高学年になるにつれて、図書室活用の時間の確保が難しくなってくる傾向があるため、引き続き読み聞かせを行ったり、おすすめの本を紹介したりする。また、読んだ本の冊数を可視化したり、表彰したりする取り組みも可能であれば行っていく。
- 絵や写真が多い本でもいいので、読書の楽しさを実感できるように本に触れる時間を増やす。